

報告

甲斐国の中世六地藏石幢にみる痕跡の一考察

—自然災害との関係をめぐって—

畑 大介*

※ 帝京大学文化財研究所

はじめに

- I. 甲斐国の中世六地藏石幢の状況
- II. 立地と分布

III. 関係する事柄

おわりに

はじめに

大井俣窪八幡神社（山梨市北）の別当普賢寺（上之坊）に伝来した『王代記』（『山梨県史』資料編6）には、「同（永享）五年（1433）癸丑九月十六日夜、大震動シテ六地藏コロフ」と記されている。『王代記』はいくつかの部分で構成され、この記述は掲載された『山梨県史』の解説によると「王代記」及び「年録」にあたる。西川広平氏は15・16世紀の甲斐国を対象に地震災害について史料分析するなかで、『王代記』のこの部分については寛正7年（1466）条以降に甲斐国内に関する事項が専ら記されるようになるとして、永享5年地震については甲斐国外の状況を記載したと推測している（西川 2021）。地震の規模はマグニチュード7以上で、相模灘付近が震源と考えられているため（宇佐美他 2013）、相模・伊豆近辺の出来事であろうか。この六地藏が地震で転倒したという記述に接して、甲斐の六地藏はこれまでの程度地震などの自然災害の影響を受けてきたのか、調べてみようと思立った。甲斐国中地域では後述のとおり、15世紀代において多くの六地藏石幢が造られたことが確認されている。

地震や津波などの自然災害を契機として造立された石造物は、東日本大震災をきっかけとして広く注目されるようになってきた。近年、徳島県の地震津波碑調査（徳島県教委 2017）をはじめ、銘文で災害の記憶を刻む石造物の収集や報告が各地で進められているが、そのような刻銘を持たない石造物であっても、かつての災害の痕跡がいろいろな形で刻まれている。たとえば、石造物も地震・津波・洪水・土砂崩れなどの災害によって倒壊し、場合によっては地中に埋もれる。その度ごとに人々は、地中から

掘り出したり、起こして立てたり積み上げたりしてきた。しかし元の形に戻らないことも多い。破損したり、亀裂が入ったり、組み合わせ式の石造物の場合は部材がみつからなかったりする。この時点でその石造物には災害の痕跡が刻まれたことになる。しかし当然のことながら、石造物の改変の要因は様々

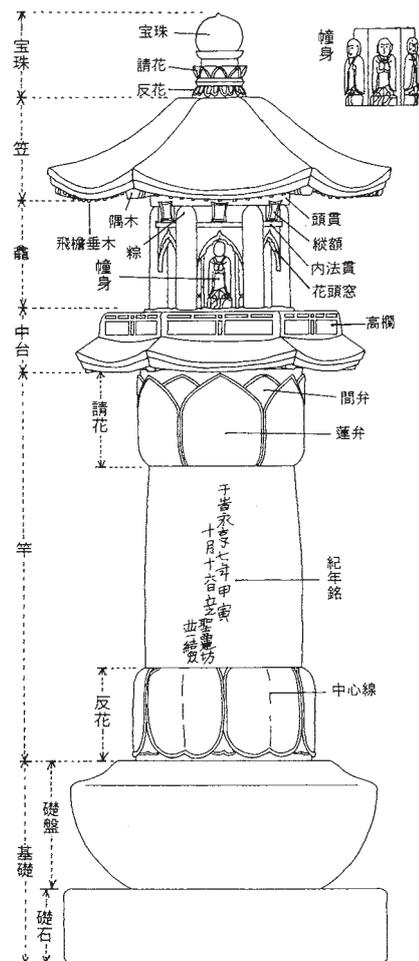


図1 中世重制六地藏石幢の形態と部分名称（『甲斐の中世石幢』より）

で自然災害に起因するものばかりではない。戦乱や紛争に伴う破壊もあったであろうし、明治初期の廃仏毀釈でも多くの石造物が影響を受けている。そのため災害が原因であるかは慎重に判断されなければならないが、分析に適した石造物の改変状況を広く俯瞰することによって、自然災害の影響を読み取ることにはできるのではないか。この視点に基づき、甲斐国の中世六地藏石幢について分析を試みたい。

I. 甲斐国の中世六地藏石幢の状況

15世紀になると甲斐国中地方では、六地藏を納めた石幢、六地藏石幢が多数造られた。そのほとんどは重制で、一般的な部材構成は上から宝珠・笠・龕・幢身・中台・竿・礎盤・礎石からなり、幢身に六体の地蔵が浮き彫りされている（図1）。竿は径を増して上に請花、下に反花が付く円柱型を主体とするが、請花・反花を刻まない円柱型や六角柱型もみられる。『山梨県史』の調査結果をまとめた『甲斐の中世石幢』（『山梨県史』資料編7 中世4 別冊）に載る重制中世六地藏石幢は236基を数え、紀年銘をもつものは限られるものの、形態からその多くは15世紀代に造られたと考えられている⁴⁾。また15世紀中頃までの紀年銘をもつ、あるいは形態からその時期と考えられるものは全体の約80%を占めている。『甲斐の中世石幢』をもとに、個々の石幢の部材の残存状況を表1にまとめた。番号は『甲斐の中世石幢』と共通で、「○」はその部材がたとえ一部であったとしても残存していることを示す。「欠」は本文をはじめ図版・写真によって欠損や亀裂部分があることが確認できるもので、日常的な風雨による摩耗や人為的な削り痕と判断できる場合を除く⁵⁾。現存する石幢には、近世以降の後補部分や他の石造物からの転用品が多くみられるが、それらは除外し造立当時の部材と判断できるもののみ示した。下部の礎盤・礎石は地中に埋もれ、存在が確認できない例も多い。またなかには礎盤と礎石で構成されていないと考えられるものも一部あり、その場合は「基礎」とした。総高については部材を欠く例が多いため個々の事例のもとの高さは把握しがたいが、大型ではほぼ完形の36三輪神社は約289cmを測り、造立当時は2mを超えるものが主流であったとみられる。

さて、表1をみるとそれぞれ多くの部材が欠失し、また残存していても欠損部が数多く認められる。欠

損なくすべての部材がそろって確認できる例はなく、欠損部はあるもののすべての部材がそろっているのは36三輪神社・52宝積寺・58上条東割1279番地である。185西願寺（写真3）については宝珠が後補か否か判断できないとされるが、造立当時のものであればこれらに加えられることになる。また礎石のみが確認できないものは14中丸共同墓地・24東泉院・25白倉晴幸家・27日影道祖神場北・46子安神社西側墓地・48満福寺参道脇・49光台寺・54慈眼院1・61金剛寺で、北杜市・韮崎市域の八ヶ岳・茅ヶ岳南麓地域に集中する傾向が認められる。61金剛寺は表1では欠損部がないが、実見したところ、宝珠・笠が若干欠損し、礎盤下部にも欠損部が認められた。つぎに部材ごとに残存率をみてみたい。石造物は他所に運ばれ移動するケースが少なからずあるため、この236例のなかにも原位置を離れて部材が移動した例があると推測される。小型の宝珠や幢身が最も移動しやすい一方、重量がある竿は運びにくく、原位置ないし原位置の近くである可能性が高い。その視点に基づき、竿が残っている事例について部材ごとの残存数とそのうち欠損部があるものの数、さらにそれらの割合を表2に示した。部材が残る割合はそれぞれ異なり、中台・幢身・笠・宝珠・龕の順で残りがよい。倒壊した場合、小さな部材ほど見づらくないと考えられるが、幢身が比較的良好に残っているのは信仰の本体部分という意識から、積極的に回収されたのではないか。また宝珠・幢身といった小さな部材ほど欠損割合が低く、これは小さいほど倒壊時には壊れにくいことを示しているであろう。ちなみに故意に破壊されたのであれば信仰対象の地蔵像が刻まれた幢身が攻撃対象となることが多かったはずであるが、その様子はこの表からは読み取れない。注目すべきは龕の欠損割合が極めて高い点で、61金剛寺を除くすべての例で6本ある柱のうち何本かは破損している。これはこの石幢の構造的な欠陥と関係し、上に重量のある笠を載せているわりに龕の柱は華奢で折れやすく（写真1・2）、この柱が折れて笠以上が倒壊するケースが多かったと推測される。部材の残存割合とその欠損割合は部材の種類により異なっているが、多くの部材を欠き、残された部材もその種類によっては多く破損していることを確認しておきたい。宝珠・笠・龕・幢身・中台のすべての部材がそろい、しかも欠損がない事例はみられないことは、現存する中世六地藏石幢の



写真1 36 三輪神社六地藏石幢



写真2 同上の柱を欠く龕

ほとんどが部分的であれ少なくとも一度は倒壊したことを示しているのであろう。戦乱や紛争などに伴う人為的な破壊によるものも含まれていると考えられるが、この齊一的な状況は地震による被害を示しているのではないか。地震は震源地の位置や地盤強度等によって揺れ方は異なると考えられるが、一度に広域において影響を与える。

II. 立地と分布

山梨の中世重制六地藏石幢はほぼ国中地域のみに見られる形態で、後述のとおりその分布は集中することなく点在している。これは当時の村落ごとに、村の入り口や辻といった境目と意識された地点に造立されることを典型としているためと考えられる。『甲斐の中世石幢』は寺院の境内や墓地に立つ例は洪水や道路の拡幅工事などに関係して移設されたものが多かったとみているが、たとえ移設されたとしても長距離移動ではなく、多くはその寺院や墓地が

位置する村内から運搬されたのであろう。よって国中地域の中世六地藏石幢の多くは15世紀段階でその村落が存在していたことを示している。ただし当然のことながら、石幢が残る村落が当時のすべての村落ではない。15世紀段階に存在した甲斐国中地域の村落は正確には把握できないが、石幢が残る村落はその一部と考えられる。また当時のすべての村落に石幢が立てられたわけではないだろうし、すでに地中に埋没してしまった石幢も多いと思われる。

図2は『甲斐の中世石幢』が収集した中世重制六地藏石幢のうち、竿が残る事例のみについて地点を示したものである。竿を基準としたのは、前述の移動を考慮したためである。ドットの形は、宝珠・笠・龕・幢身・中台の残存数を示している。分布を概観すると八ヶ岳・茅ヶ岳南麓地域や甲府盆地の北部山岳地域は部材の残存率が高く(■)、甲府盆地内はならして低い(▲)。図3は笠に注目した図で、前掲地域では笠が残っている例(▲)が多く、後掲地域では残らない例(●)が多い。この分布における残存率の差は何を示しているのであろうか。地震に加えて盆地内では洪水のため倒壊したケースも多かったであろう。地震に伴って液状化現象がおきた場合は異なるが、単に地震で倒壊したのであれば、部材はその地点付近に散在するので、破損したとしてもまたある程度積み上げることは可能である。紛争等によって故意に倒された場合も同様である。しかし洪水で倒壊した場合は、土砂に埋もれ部材をすべて回収することは困難な場合が多かったのではないか。盆地内の事例において、部材の残存率が低いのはそれが要因であろう。宝珠・幢身といった小型の部材が見つからないのは理解できるが、大きな笠まで散逸している例が多いのは(図3)、いかに洪水が強烈であったかを物語っているように思える。笛吹川流域において万力より下流側に笠のない石幢が集中的にみられることは、そのことを表しているのであろう。一方、山間地や山麓では、地震に加え大雨による土砂崩れによって石幢が倒壊したり地中に埋もれることもあったのではないか。

III. 関係する事柄

まず自然災害以外の改変要因について考えてみたい。国中地域の村々で六地藏石幢の造立が進められた15世紀は、紛争の時代であった。応永23年(1416)

の上杉禅秀の乱以降、天文元年（1532）まで続いた武田信虎と今井信元の抗争まで、甲斐国内は政情不安が続き、武力抗争が繰り返された（『山梨県史』通史編2）。その後の戦乱としては、武田氏滅亡につながった天正10年（1582）の織田勢の侵甲と、その後の徳川・北条両軍による甲斐争奪戦（天正壬午の乱）が挙げられ、近世になると騒動も起きている。

これらの紛争等により、六地藏石幢が実際に破壊されという情報には接していないが、可能性としてはある程度の人為的破壊はあったのかもしれない。しかし、石幢が選択的に悉く破壊されることがないかぎり、広域における齊一的な破損状況と結びつけるべきではないであろう。

一方、明治初期の廃仏毀釈によるものか、宗教弾

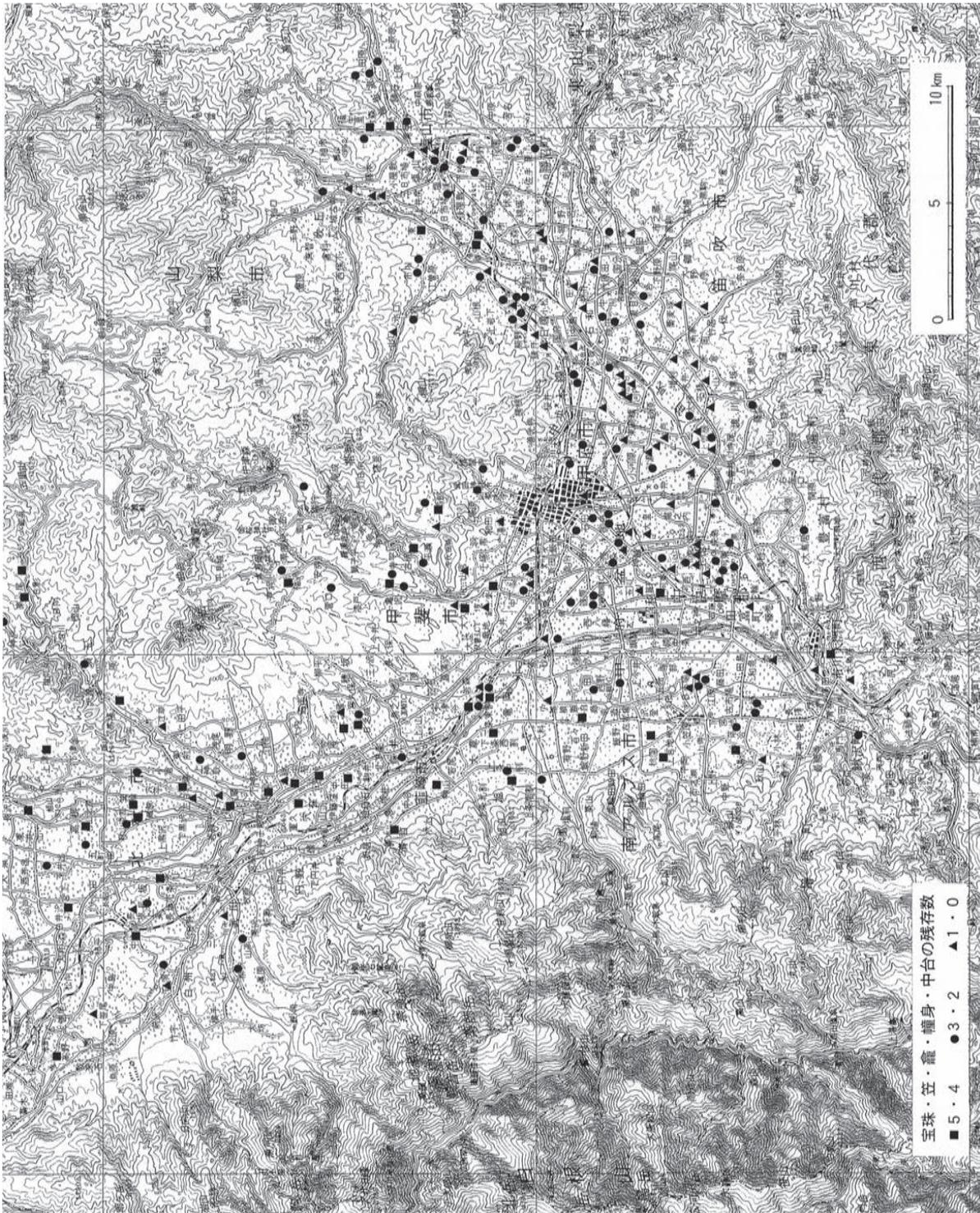


図2 中世六地藏石幢の分布I（部材の残存数別）

庄によるとみられる改変は確かに認められる。185西願寺の永禄2年（1559）銘の石幢（写真3）の幢身（写真4）をみると、多くの地蔵の頭部が集中的に壊されており、故意による破壊が実際に行われたことを示している。ただし先にふれたとおり、中世六地藏石幢の幢身の損傷は全体的には顕著ではないので、この手の破壊は限定的であったと思われる。

つぎに、石造物から看取される地震対策の意識を探ってみたい。石造物のなかには耐震を意識したと

推測される例もあるが（江藤 2022）、構造や石造物の種類の変化に地震対策意識がどの程度反映されているのか。甲斐国の六地藏石幢は独自の形態で、とくに龕の柱が壊れやすいが、このような形式の石幢が成立し普及したこと自体が、大地震に対する認識や警戒感が欠乏していたことを示しているのだろうか。

『山梨県史』資料編7の調査や、坂本美夫氏の一連の調査報告（坂本 2002 a・b 他）によると、15世

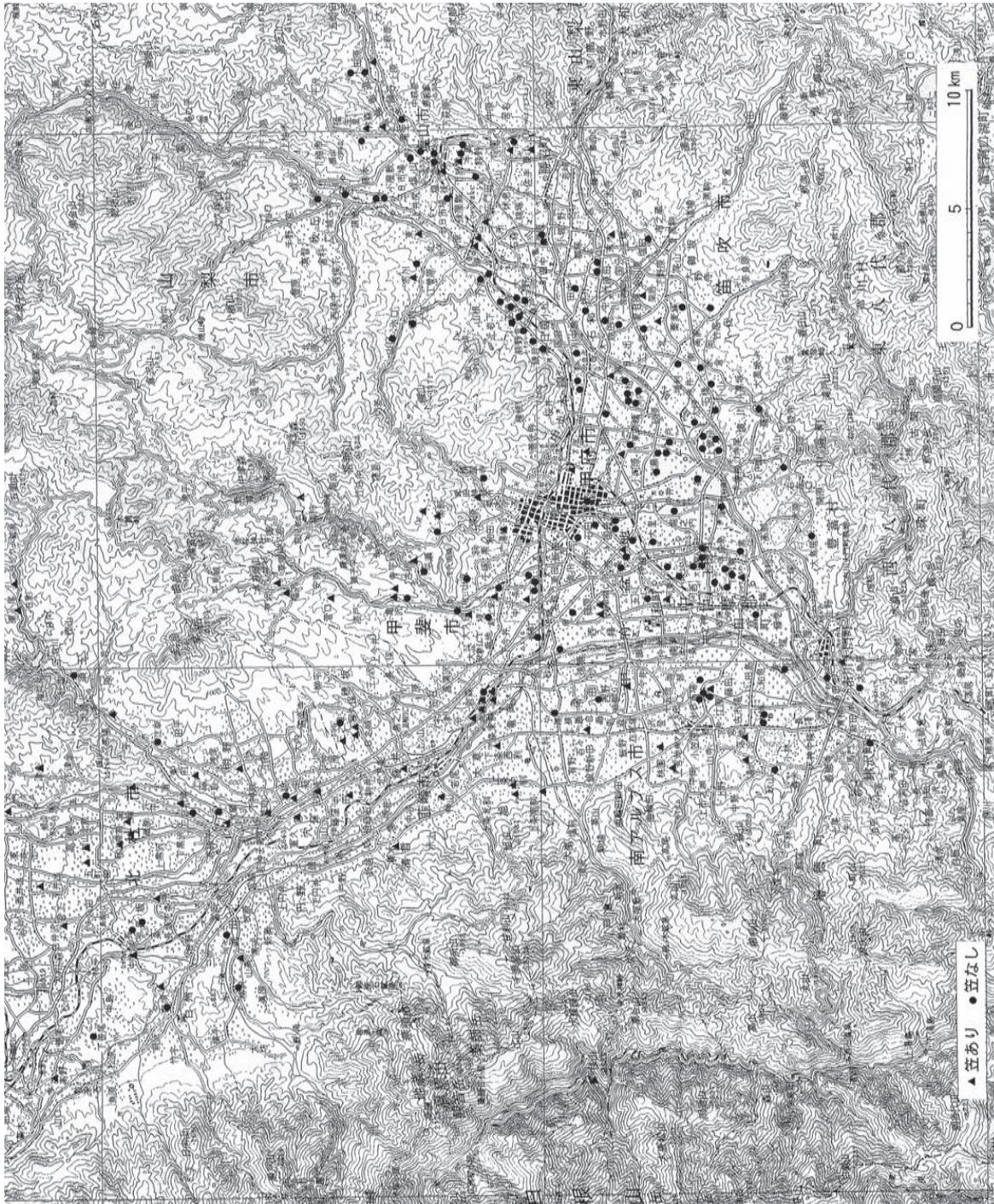


図3 中世六地藏石幢の分布Ⅱ（笠の有無）



写真3 185 西願寺六地藏石幢



写真4 同左幢身の地藏像

紀後半以降、16世紀代になると甲斐国中地域では地藏板碑や地藏石仏が増えてくる。これらは六地藏石幢より小さく、台石を伴う程度なので地震には強い。六地藏石幢と地藏板碑・地藏石仏は造立の意味合いや主体、費用の点などから単純に同一視はできないが、国中地域に残されたこれらの石造物からみると、地藏信仰は六地藏石幢から地藏板碑・地藏石仏に受け継がれた感がある。その変化の一つの要因として六地藏石幢に対する災害上の耐久性における欠陥意識があったのであろうか。

『王代記』『年代記B』は、明応7年(1498)8月24日に地震が発生し、甲斐国内の所々で被害があったことを伝えている。これは翌25日の遠州灘付近を震源としたマグニチュード8.2～8.4と推測される大地震(宇佐美他2013)に関係する記事と考えられるが、当時ほぼ造立が行き渡りつつあった村々の六地藏石幢も多大な影響を受けたに違いない。その後も石幢は多くの地震を経験していくことになるが、今回の分析では災害の影響を受けた時期については特定できず、造立された後に地震や洪水などで倒壊したことを知るのみである。今回扱った事例のうち最も新しい紀年銘をもつ185西願寺(写真3)

は、実見によると笠の軒先が数ヶ所欠損しており、倒壊したことを物語っている。この石幢は永禄2年銘であるため、この時期以降にも地震で倒壊することかありえたとみることもできよう。ただしこの事例は、龕を持たないタイプの先駆けであり、それまでの石幢とは構造が異なるため、耐震性に対し一律に扱うことはできないことに加え、前述のとおり幢身の地藏像の頭部が故意に破壊されているため、その際笠も倒壊した可能性があり、扱いが難しい。一方、国中地域の六地藏石幢は近世になると龕を持たない構造となり、幢身が太くなって地震に強い形態(写真5)に移行していくなか、15世紀代とほぼ同じ規模・形式の六地藏石幢も点々と造られている。それらのなかには紀年銘を持つものも散見され、その破損状況を調べることによって、石幢の倒壊を引き起こすような災害がいつ発生したのか検討する材料となるであろう。一例を示すと、北杜市須玉町境の沢の円通院に所在する正徳3年(1713)銘の六地藏石幢(写真6)は中世六地藏石幢と同じタイプである。宝珠と龕を欠失し、笠と中台の軒先は欠けている部分がみられ、中台以上はかつて倒壊したことを物語る。これは正徳3年以降においても、中世のタイプが倒壊するような地震が起きたことを示しているのであろう。多くの中世六地藏石幢は、おそらく何回も倒壊を経験してきたと推測される。



写真5 近世の六地藏石幢
(笛吹市石和町中川)



写真6 円通院六地藏石幢

おわりに

『王代記』の永享5年地震で倒れた六地藏の記述をきっかけとして、『甲斐の中世石幢』で六地藏石幢の残存状況を調べてみた。現存する中世六地藏石幢の状況は、地震や洪水などの自然災害の影響を色濃く受けてきたことを示している。この見解は15世紀代において国中全域にほぼ同じ形態の石幢が村々に造られ、それらは組み合わせ式で華奢な部材を含み、地震や洪水等によって倒壊することがあったと考えられることを前提とし、それらの破損・欠損状況を広く俯瞰することによって導いたものである。しかしながら改変された石幢は、地震や洪水で倒壊したことを教えてくれるものの、いつ災害が起きたかや、何回倒壊したかについては雄弁ではない。また石幢に残された改変痕跡がすべて自然災害によってもたらされたものではないことも事実であり、石造物から読み取ろうとした地震対策の意識も想像の域を出ない。それらの分析法や判断基準について今後検討していく必要がある。自然災害が歴史学のなかで大きなテーマとなっている今日において、石造物から引き出せる災害情報がより豊かになっていくことを期待したい。

付記 本稿は、日本学術振興会科学研究費助成事業「前近代の災害復興に関する史料論的・学際的研究—東海地震の内陸部被害を対象に—」(基盤研究(C)19K00962・研究代表者：西川広平)の研究成果の一部である。

註

- 1) あらためて『王代記』のこの部分を見直すと、たしかに寛正7年より前は甲斐国外の事件等が列挙されている。しかしそれらには人名や地名・寺院名などから、それがどのような出来事か具体的に捉えられるような工夫がされている記事がほとんどである。一方、この六地藏に関する記述は、どこの六地藏か説明されていない。このことは甲斐国内あるいは普賢寺近くの出来事であったことを示しているのかもしれない。『王代記』[年代記B]の永正11年(1514)条には「甲州東群(郡)八幡宮ノ鳥居十二月十八日ニ立」、天文2年(1533)条には「八幡

鳥居ノ地藏再興、今ハ御門ノ南ニ立」とある。八幡鳥居の地藏は再興され、御門の南に移設されたが、現在惣門(神門)の南側には地藏はみられない。ただし門北側の玉垣脇には中世六地藏石幢の部材が残存する。永享5年に倒壊した六地藏と、天文2年に再興され御門の南に立てられた八幡鳥居の地藏、惣門北側に残る中世六地藏石幢を安易に結びつけることはできないが、仮に倒壊した六地藏と八幡鳥居の地藏が同じとすると、丁度百年後に再興されたことになる。

- 2) 中森勝之氏は、①犠牲者の供養を目的とするもの、②惨状を後世に伝えようとするもの、③救済復興の決意を述べたもの、④救済事業や篤志家への感謝の意を込めたもの、の4種類に分けている(中森2022)。
- 3) 今回は規模・構造が同一である81安楽寺七観音石幢も対象とする。
- 4) 『甲斐の中世石幢』の石幢の年代観は、担当した持田友宏氏らが現地調査による実見に基づいて獲得したものであり、尊重されなくてはならないが、紀年銘をもたないものが大半であることを考慮すると、今後部分的に見直しがされることもありえるであろう。
- 5) 記述等で示された以外にも、実際にはさらに多くの小さな欠損・亀裂部分が認められるので、『甲斐の中世石幢』は顕著な部分について示していることになる。
- 6) 『甲斐の中世石幢』は、往時子供たちが子守りをしながら暇つぶしのために小石等で擦ったり、信仰に伴い削った石の粉を葉代わりにしたという伝承を載せている。

参考・引用文献

- 江藤和幸 2022「耐震を意識したと推測される石造物の内部構造について」『NewsLetterひびき』vol.19 石造物研究会
- 宇佐美龍夫他 2013『日本被害地震総覧599-2012』東京大学出版会
- 坂本美夫 2002a「山梨県の中世石仏—陽刻地藏菩薩板碑を中心として—」『甲斐の美術・建造物・城郭』岩田書院
- 坂本美夫 2002b「山梨県の中世石仏—地藏石仏(光背形)を中心として—」『研究紀要』18 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 徳島県教育委員会 2017『南海地震徳島県地震津波碑調査報告書』
- 中森勝之 2022「伝承、供養と遺戒の石造物」『日本の石仏』No.177 日本石仏協会
- 西川広平 2021「十五・十六世紀の列島内陸部における地震災害について—甲斐国を対象に—」『史学』66号(通巻286号)中央大学文学部

表 1-1 中世六地藏石幢の残存部材一覧 I

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
10	北杜市小淵沢町小淵沢	高福寺	15世紀後半		○欠	○欠	○	○	○欠	○	○
11	下笹尾	諏訪神社	15世紀前半						○		
12	長坂町長坂上条	妙要寺	1594年						○		
13	白井沢	竜沢寺	15世紀前半	○	○		○	○	○	○	○
14	中丸	共同墓地	15世紀前半	○	○	○欠	○	○	○	○	
15	渋沢	妙林寺参道	15世紀前半				○	○欠	○	○	○
16	塚川	円浄寺入口	15世紀中頃	○	○		○	○	○	○	?
17	大泉町西井出	中村道祖神場	1434年		○		○	○	○	○	?
18	高根町長沢	輿水家墓地	15世紀前半	○	○	○欠	○	○	○	?	?
19	村山北割	八ツ牛公民館脇	1467年		○欠		○	○	○欠	○	○
20	村山東割	1402番地	1437年	○	○		○	○	○	○	?
21	箕輪	久保共同墓地	15世紀前半		○	○欠	○	○	○	○	○
22	蔵原	上蔵原共同墓地	15世紀前半	○欠	○			○	○	○	○
23	村山西割	赤羽根公民館前	15世紀中頃		○			○	○		
24	須玉町下津金	東泉院	15世紀前半	○欠	○欠	○欠	○	○	○	○	?
25	小尾	白倉晴幸家	15世紀中頃	○	○	○欠	○	○	○	○	?
26	小尾	正覚寺	15世紀前半	○	○			○欠	○	○	?
27	比志	日影道祖神場北	15世紀中頃	○欠	○	○欠	○	○	○	○	?
28	比志	比志大師堂前	15世紀中頃				○	○	○	○	?
29	江草	薬師堂前	15世紀中頃	○	○欠		○	○	○	○	?
30	江草	4014番地	15世紀前半					○欠	○	基礎	
31	江草	小池平 向原道路脇	15世紀中頃		○欠			○欠	○		
32	穴平	遠照寺	15世紀前半	○	○欠			○	○	○	○
33	穴平	二日市場共同墓地	1409年	○	○欠		?	○	○	基礎	
34	穴平	七社	15世紀前半						○欠		
35	大蔵	少林寺	1434年						○欠		
36	若神子	三輪神社	1435年	○	○欠	○欠	○	○	○	○	○
37	武川町三吹	下三吹道祖神場	不明						○		
38	柳沢	1539番地	1496年				○	○	○	○	
39	山高	高竜寺	15世紀後半		○欠			○	○	○	○
40	白州町大武川	福泉寺	15世紀末					○欠	○		
41	花水	清泰寺	15世紀前半		○		○	○	○	○	○
42	白須	自元寺	15世紀後半						○	○	
43	明野町上手	北道祖神場	15世紀後半		○欠		○	○	○	○	?
44	上手	長竜寺	15世紀前半			○欠					
45	上手	431番地	15世紀前半				○	○	○		○
46	上手	子安神社西側墓地	15世紀前半	○欠	○	○欠	○	○欠	○	○	
47	上手	西村道祖神場	15世紀中頃	○欠	○		○	○	○	○	

表 1-2 中世六地藏石幢の残存部材一覧Ⅱ

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
48	葦崎市穴山町久保	満福寺参道脇	15世紀前半	○欠	○	○欠	○	○	○	○	?
49	中田町中条	光台寺	15世紀中頃	○	○	○欠	○	○	○	○	
50	旭町上条南割	穂見神社(里宮)	1422年		○			○	○	○	○
51	藤井町北下条	1603番地	15世紀中頃	○	○欠				○	○	?
52	穂坂町三之蔵	宝積寺	15世紀前半	○	○	○欠	○	○	○	○	○
53	穂坂町宮久保	倭文神社	不明						○	基礎	
54	穂坂町三ッ沢	慈眼院1	15世紀中頃	○	○	○欠	○	○	○	○	?
55	穂坂町三ッ沢	慈眼院2	15世紀前半		○		○	○	○	○	
56	清哲町青木	常光寺	15世紀前半		○	○欠	○	○	○	○	?
57	神山町鍋山	願成寺	15世紀前半	○	○		○	○	○	○	?
58	大草町上条東割	1279番地	15世紀前半	○	○	○欠	○	○	○	○	○
59	旭町上条南割	大公寺	15世紀前半	○	○欠	○欠	○	○	○		
60	旭町上条南割	功刀治郎家	15世紀前半		○欠			○欠	○	○	?
61	甲斐市宇津谷	金剛寺	15世紀中頃	○	○	○	○	○	○	○	?
62	宇津谷	妙善寺1	15世紀中頃		○欠				○	○	
63	宇津谷	妙善寺2	15世紀中頃		○		○	○	○	○	○
64	宇津谷	妙善寺3	15世紀前半					○欠	○	○	
65	志田	下志田公民館前	15世紀中頃		○		○	○	○	○欠	
66	志田	地藏院	15世紀前半		○	○欠	○	○	○	○	?
67	上福沢	下南新居道祖神場	1470年		○		○	○	○	○	?
68	神戸	57番地	15世紀前半	○?	○		○	○	○欠	基礎	
69	上菅口	広濟寺	15世紀中頃	○	○			○	○	○	○
70	亀沢	天沢寺(天沢)	1426年	○	○		○	○	○	○	?
71	亀沢	天沢寺本堂前	15世紀中頃		○		○	○	○	○	?
72	亀沢	久保道祖神場	15世紀初頭				○	○	○	?	?
73	牛匂	12番地	追刻1421年						○	基礎	
74	牛匂	長光寺	15世紀中頃	○	○		○	○欠	○	○	○
75	天狗沢	金山神社	15世紀初頭					○欠	○	基礎	
76	島上条	1285番地	15世紀前半	○欠	○欠		○	○	○	○	?
77	島上条	秋葉神社	15世紀前半				○	○欠		○	
78	大下条	宝珠寺	15世紀中頃		○欠			○	○	○	
79	長塚	長塚神社1	15世紀後半					○	○	○	
80	長塚	長塚神社2	15世紀後半						○	○	
81	竜王	安楽寺(七観音石幢)	15世紀中頃				○	○	○	○	?
82	竜王	慈照寺参道脇	15世紀中頃					○	○	○	?
83	西八幡	常照院1	15世紀前半		○		○	○	○	○	○
84	西八幡	常照院2	15世紀前半		○		○	○	○	○	?
85	篠原	金剛寺	15世紀後半				○	○欠	○	○	?

表 1-3 中世六地藏石幢の残存部材一覧Ⅲ

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
86	昭和町築地新居	源光寺 1	15 世紀前半						○		
87	築地新居	源光寺 2	不明					○欠			
88	飯喰	浄安寺	15 世紀前半	○	○欠		○	○欠	○	?	?
89	西条	浄慶寺	15 世紀後半					○	○	?	
90	西条	妙源寺	1411 年				○	○	○	?	?
91	河東中島	572 番地（棹地藏）	15 世紀前半						○		
92	紙漉阿原	本誓寺	15 世紀中頃				○	○欠	○	?	?
93	中央市西花輪	長徳院	15 世紀						○欠		
94	南アルプス市六科	1587 番地	15 世紀中頃					○	○	○	?
95	榎原	長谷寺	15 世紀							○	
96	上八田	西新居道祖神場	15 世紀中頃			○欠	○	○	○	○	○
97	百々	蔵福院	15 世紀前半	○	○		○	○欠	○	○	○
98	西野	長円庵	15 世紀前半		○			○	○	○	?
99	桃園	蔵珠院	1411 年	○	○		○	○	○	○	?
100	上宮地	長昌院	15 世紀前半	○	○欠		○	○	○	○	○
101	加賀美	2108 番地	15 世紀前半		○		○	○	○	○	○
102	十日市場	619 番地	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	○
103	十日市場	761 番地	15 世紀中頃					○欠	○	○	○
104	十日市場	安養寺 1	15 世紀前半						○欠		
105	十日市場	安養寺 2	15 世紀前半		○欠						
106	寺部	円通院	15 世紀前半			○欠			○	○	?
107	中央市上三条	御崎神社	15 世紀後半						○	○	
108	下三条	妙性寺	15 世紀中頃				○	○	○欠	○	
109	下河東	熊野神社前	15 世紀前半				○	○	○	○	?
110	成島	1058 番地	15 世紀前半				○	○欠	○	○欠	
111	成島	林照院 1	1528 年						○		
112	成島	林照院 2	15 世紀後半				○		○	○	
113	成島	林照院 3	15 世紀後半						○		
114	成島	1632 番地	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	○
115	町之田	天神社	15 世紀後半		○欠			○欠	○	?	?
116	極楽寺	866 番地	15 世紀前半	○				○欠	○	○	?
117	南アルプス市川上	536 番地	15 世紀中頃		○欠		○欠	○	○	○	○
118	秋山	光昌寺	15 世紀				○欠		○	○欠	
119	大師	天神社 1	15 世紀中頃				○欠	○欠	○	○欠	○
120	大師	天神社 2	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	○
121	東南湖	光善寺 1	15 世紀前半				○		○		
122	東南湖	光善寺 2	15 世紀前半		○欠						
123	湯沢	村上道祖神場	15 世紀前半		○	○欠	○	○	○欠	○	○

表 1-4 中世六地藏石幢の残存部材一覧Ⅳ

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
124	甲府市川窪町	荒川ダム東側墓地	15世紀前半	○	○欠			○	○	○	?
125	上帯那町	正覚寺	15世紀前半		○欠			○	○	○欠	
126	上帯那町	1155番地	15世紀前半		○欠	○欠	○	○欠	○	?	?
127	平瀬町	宝蔵寺	1428年		○欠	○欠	○	○	○	○	?
128	平瀬町	香積寺	15世紀前半				○	○欠	○	○	?
129	下帯那町	角田家	15世紀中頃					○欠	○	○	?
130	山宮町	青松院	15世紀中頃						○	○	
131	和田町	法泉寺	15世紀前半		○				○		
132	塚原町	恵運院参道脇	15世紀前半		○欠		○	○欠	○	○	○
133	古府中町	興国寺参道脇	15世紀後半				○	○欠	○	?	?
134	城東二丁目	教安寺	15世紀中頃		○欠			○欠	○	○	
135	北杜市須玉町大豆生田	覚林寺地区	15世紀前半		○欠	○欠	○	○欠	○	○	○
136	甲府市太田町	一蓮寺	15世紀前半					○	○	○	
137	上石田二丁目	光福寺	15世紀前半				○	○欠	○	○	○
138	荒川一丁目	福泉寺	15世紀中頃				○	○	○	○	?
139	国母一丁目	清泰寺	15世紀				○	○	○		
140	国母四丁目	義雲院1	15世紀中頃				○	○	○	?	?
141	国母四丁目	義雲院2	15世紀中頃				○	○欠	○欠	?	?
142	国母七丁目	常正院	15世紀後半	○	○			○	○	○	?
143	国母八丁目	国母地藏旧址	15世紀中頃						○欠	○	?
144	大里町	窪中島道祖神場	15世紀中頃					○	○	基礎	
145	大里町	永正寺	15世紀中頃				○		○欠		
146	下今井町	751番地	15世紀中頃						○欠	○	○
147	西下条町	796番地	15世紀中頃				○	○	○	○	○
148	上町	福王寺1	15世紀後半							○	
149	上町	福王寺2	15世紀前半					○欠			
150	西油川町	公民館前	15世紀中頃						○		
151	蓬沢町	最終処分場西側	15世紀中頃		○欠			○欠	○	○	?
152	西高橋町	高橋寺	15世紀前半						○	基礎	
153	小瀬町	923番地	15世紀中頃				○	○欠	○	○	?
154	増坪町	西光寺墓地	15世紀						○		
155	国玉町	能満寺	15世紀中頃		○欠		○	○欠	○	○	
156	向町	玉諸公園南	15世紀前半						○	基礎	
157	川田町	寿徳院地藏堂内	15世紀後半				○	○欠	○	○	?
158	川田町	寿徳院山門脇	15世紀中頃				○	○	○	○	○

表 1-5 中世六地藏石幢の残存部材一覧 V

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
159	甲州市塩山下小田原	1343 番地	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	
160	塩山下小田原	240 番地	15 世紀中頃				○	○	○	○	○
161	塩山上小田原	588 番地	15 世紀中頃		○		○	○	○	○	?
162	塩山竹森	1442 番地	15 世紀前半	○欠	○		○	○	○	○	○
163	塩山竹森	玉諸神社	15 世紀前半				○	○欠	○	○	?
164	塩山竹森	3833 番地	15 世紀前半	○	○		○	○	○	○	
165	塩山上栗生野	上中集会所	15 世紀					○			
166	塩山上栗生野	188 番地	15 世紀中頃					○	○	○	?
167	塩山小屋敷	恵林寺庭園内	15 世紀中頃					○欠	○	○	○
168	塩山小屋敷	恵林寺本堂前	15 世紀後半						○	○	?
169	塩山千野	3689 番地	15 世紀中頃						○	○	○
170	塩山千野	3507 番地	1410 年					○	○	基礎	
171	塩山上於曾	菅田天神社	1409 年		○欠			○	○	基礎	
172	塩山上於曾	正覚寺 1	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	
173	塩山上於曾	正覚寺 2	15 世紀前半					○	○	基礎	
174	塩山上塩後	鈴宮神社南	15 世紀中頃				○	○	○	○	?
175	塩山熊野	178 番地	15 世紀後半				○	○	○	○欠	
176	塩山下於曾	466 番地	15 世紀後半		○欠		○	○欠	○	?	?
177	塩山赤尾	757 番地	15 世紀中頃					○欠	○	○	
178	塩山牛奥	4111 番地	15 世紀中頃						○	?	?
179	塩山西野原	1 番地	15 世紀				○	○欠	○	基礎	
180	塩山西野原	42 番地	15 世紀前半		○		○	○欠	○	○	
181	山梨市下栗原	大宮五所大神	15 世紀後半						○		
182	上栗原	妙善寺	15 世紀中頃						○	○	?
183	三ヶ所	475 番地	15 世紀		○欠						
184	三ヶ所	円通寺	15 世紀中頃		○欠			○	○	?	?
185	小原東	西願寺	1559 年	?	○	—	○	○	○	○	○
186	小原西	法蔵寺	15 世紀前半		○欠	○欠	○	○	○	○	○
187	正徳寺	道祖神場前	15 世紀中頃				○	○欠	○欠	○	?
188	万力	諏訪神社	15 世紀後半						○		
189	万力	霊岩寺入口辻	15 世紀後半				○	○欠	○	○	○
190	落合	709 番地	15 世紀後半				○	○欠	○	○	
191	落合	常性寺門前	15 世紀後半						○	○	
192	落合	山梨公民館前	15 世紀後半				○	○	○	?	?
193	東	秋山向家	15 世紀前半		○欠	—	○	○	○	基礎	
194	市川	竜泉寺	15 世紀中頃				○		○	○	
195	市川	清水寺	15 世紀後半		○欠			○欠	○	○	○

表 1-6 中世六地藏石幢の残存部材一覧VI

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
196	山梨市水口	2404 番地	15 世紀前半			○欠	○	○欠		基礎	
197	水口	719 番地	15 世紀前半				○	○欠	○欠	基礎	
198	水口	2767 番地	15 世紀中頃						○	○	○
199	笛吹市春日居町徳永	公民館前	15 世紀中頃					○	○	○	○
200	春日居町鎮目	逆地藏堂	15 世紀						○欠		
201	春日居町鎮目	保雲寺	15 世紀中頃				○		○	?	?
202	春日居町別田	保泉寺	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	
203	春日居町下岩下	5 番地	15 世紀後半						○	○	
204	山梨市牧丘町倉科	西念寺	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	
205	牧丘町窪平	公民館前	15 世紀前半				○		○	○	?
206	甲州市勝沼町勝沼	東漸院	15 世紀前半		○欠		○	○	○	○	○
207	大和町初鹿野	公民館	15 世紀		○欠		○欠	○欠			
208	笛吹市石和町小石和	539 番地	15 世紀						○欠	○	
209	石和町河内	佐久神社	15 世紀						○		
210	石和町八田	願念寺	15 世紀前半				○		○	○2	○
211	石和町四日市場	2153 番地	15 世紀中頃		○欠		○	○欠	○欠	○	○
212	石和町広瀬	113 番地	15 世紀						○	○	
213	石和町東油川	210 番地	15 世紀						○		
214	石和町唐柏	410 番地 1	15 世紀						○		
215	石和町唐柏	410 番地 2	15 世紀						○		
216	石和町中川	日当神社西側	15 世紀前半	○欠			○	○	○	○	?
217	御坂町井之上	山王神社地藏堂	15 世紀中頃				○欠	○欠	○	○	○
218	御坂町夏目原	果実共撰所東側	15 世紀後半		○欠			○欠	○	?	?
219	御坂町二之宮	美和神社北側	15 世紀後半				○	○	○	?	?
220	御坂町二之宮	381 番地	15 世紀		○欠		?		○欠	○	○
221	一宮町田中	道祖神場	15 世紀					○欠	○	○	○
222	一宮町末木	長昌寺	15 世紀中頃		○欠		○	○欠	○	○	?
223	一宮町坪井	道祖神場	15 世紀中頃				○		○	○	?
224	一宮町市之蔵	宝福寺	15 世紀中頃				○		○	?	?
225	一宮町東原	泉正寺 1	15 世紀中頃				○		○	○	○
226	一宮町東原	泉正寺 2	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	○
227	八代町高家	熊野神社前	15 世紀前半					○欠	○	○	
228	八代町南	荒神堂	15 世紀				○		○欠	○?	
229	八代町竹居	2056 番地	15 世紀中頃					○欠	○	○	○
230	八代町米倉	4 番地	15 世紀中頃						○	○	○

表 1-7 中世六地藏石幢の残存部材一覧Ⅶ

番号	所在地	地名	時期	宝珠	笠	龕	幢身	中台	竿	礎盤	礎石
231	笛吹市境川町小山	1675 番地	15 世紀						○	○	○
232	境川町三柵	境川村総合会館角	15 世紀中頃						○	○	○
233	境川町藤袋	広岸寺	15 世紀前半				○	○	○		
234	境川町大坪	430 番地	15 世紀				○	○欠	○	○	?
235	甲府市上曽根	907 番地	15 世紀				○欠		○	?	?
236	上曽根	浜 道路脇	15 世紀中頃						○	○	○
237	上曽根	133 番地	15 世紀中頃				○	○欠	○	○	○
238	上曽根	2244 番地	15 世紀前半						○	○	○
239	右左口	道祖神場	15 世紀前半			○欠		○	○	○	
240	中央市大鳥居	172 番地	15 世紀前半				○	○欠	○	○	?
241	市川三郷町下大鳥居	竜仙院	15 世紀後半				○欠		○	○	
242	印沢	村松養魚場	15 世紀前半	○	○		○	○	○	○	?
243	市川大門	653 番地	15 世紀						○		
244	五八	922 番地	15 世紀中頃		○欠		○	○			
245	富士川町鵜沢	妙台寺	15 世紀中頃				○	○	○	○	?

表 2 部材ごとの残存・欠損数とその割合

部 材 名	宝 珠	笠	龕	幢 身	中 台
残存数	42 基	89 基	26 基	131 基	162 基
(うち欠損数)	(9 基)	(40 基)	(25 基)	(6 基)	(63 基)
残存割合	19%	40%	12%	59%	73%
(うち欠損割合)	(21%)	(45%)	(96%)	(5%)	(39%)

* 竿がある 223 例中（龕のみ 221 例中）。

* はっきりしないもの（「？」を付けたもの）も含む。